

## Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成30年 1月～平成30年 6月期
- 今期 平成30年 7月～平成30年12月期
- 来期 平成31年 1月～平成31年 6月期

1. 景況天気図

【業況判断(全体)】

	H30年7～9月期(実績)	H30年10～12月期(実績)	H31年1～3月期(見込み)	H31年4～6月期(見通し)
全体				
BSI	(▲17.6)	(▲14.8)	(▲27.5)	(▲23.8)

【従業者規模別】

	H30年7～9月期(実績)	H30年10～12月期(実績)	H31年1～3月期(見込み)	H31年4～6月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲32.9)	(▲34.5)	(▲42.8)	(▲40.1)
5人～19人				
BSI	(▲20.2)	(▲11.6)	(▲26.2)	(▲23.4)
20人以上				
BSI	(▲3.3)	(▲1.3)	(▲16.0)	(▲11.1)

【業種別】

	H30年7～9月期(実績)	H30年10～12月期(実績)	H31年1～3月期(見込み)	H31年4～6月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲19.9)	(▲13.3)	(▲26.6)	(▲28.2)
非製造業計				
BSI	(▲16.9)	(▲15.1)	(▲27.7)	(▲22.5)
建設業				
BSI	(▲8.6)	(▲5.9)	(▲16.8)	(▲20.0)
運輸・通信業				
BSI	(▲4.8)	(▲3.5)	(▲23.4)	(▲14.5)
卸・小売業				
BSI	(▲26.7)	(▲26.0)	(▲32.9)	(▲19.8)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲39.3)	(▲37.6)	(▲48.7)	(▲41.0)
サービス業				
BSI	(▲13.2)	(▲11.2)	(▲25.0)	(▲21.6)

【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1～)	(10.1～30.0)	(▲10.0～10.0)	(▲10.1～▲30.0)	(▲30.1～▲50.0)	(▲50.1～)
矢印マーク						
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少				

## 2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」については、平成30年7～9月期は同4～6月期から改善し、続く30年10～12月期も改善が続いた。足元の31年1～3月期は30年10～12月期から大幅に悪化する見込みであるが、先行きの31年4～6月期は同1～3月期から再び改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも上昇したほか、「資金繰り」はほぼ同水準で推移した。在庫では「製・商品在庫」、「原材料在庫」がともにほぼ同水準で推移した。価格では「仕入価格」は上昇したが、「販売価格」はほぼ同水準で推移した。雇用では「所定外労働時間」、「一人当たり人件費」がともに上昇した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「労働力不足」、「仕入価格の上昇」と続いている。

業界の動向としては、東京五輪関連事業により、一部に業況の改善を期待する声がある一方、原材料等の仕入価格の上昇、人手不足による受注への対応力の低下や人件費の増加などによる採算悪化を懸念する声が多数みられた。

## 3. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

<p>1. 業況 P. 12～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年7～9月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲17.6と、30年4～6月期の▲23.3から5.7ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲14.8と、同7～9月期からさらに2.8ポイント改善した。</li> <li>足元の31年1～3月期は▲27.5となり、30年10～12月期から12.7ポイント悪化する見込みとなっているが、先行きの31年4～6月期は▲23.8と、同1～3月期から3.7ポイント改善する見通しとなっている。</li> </ul>
<p>2. 生産・売上 P. 20～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲9.9と、前期（▲15.0）から5.1ポイント上昇した。来期は▲14.9と、今期から5.0ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>3. 受注 （製造業・建設業のみ） P. 25～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲7.8と、前期（▲15.9）から8.1ポイント上昇した。来期は▲18.8と、今期から11.0ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>4. 出荷 （製造業のみ） P. 28～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲11.6と、前期（▲12.8）から1.2ポイント上昇した。来期は▲22.4と、今期から10.8ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は▲12.0と、前期（▲12.0）から横ばいで推移した。来期は▲20.8と、今期から8.8ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>5. 在庫水準 （原材料在庫は製造業のみ） P. 33～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.4と、前期（2.2）とほぼ同水準で推移した。来期については1.1と、今期とほぼ同水準ながら適正化が進む見込みとなっている。</li> <li>今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は4.6と、前期（5.2）とほぼ同水準で推移した。来期は2.1と、今期から2.5ポイント縮小し、適正化が進む見込みとなっている。</li> </ul>
<p>6. 価格 P. 41～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は31.8と、前期（30.3）から1.5ポイント上昇した。来期については29.3と、今期から2.5ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は0.4と、前期（▲0.4）とほぼ同水準で推移した。来期は0.9と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>7. 資金繰り P. 51～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲12.2と、前期（▲11.7）とほぼ同水準で推移した。来期は▲14.7と、今期から2.5ポイント悪化する見込みとなっている。</li> </ul>

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年度の雇用BSI（正社員の数）（「増加」－「減少」）は▲2.4と、29年度（▲1.1）から1.3ポイント低下する見込みとなっている。31年度は3.5と、30年度から5.9ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見通しとなっている。</li> <li>30年度の臨時・パート社員等の雇用BSI（「増加」－「減少」）は▲0.8と、29年度（▲2.7）から1.9ポイント上昇する見込みとなっている。31年度は▲3.6と、30年度から2.8ポイント低下する見通しとなっている。</li> <li>今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲4.8と、前期（▲7.4）から2.6ポイント上昇した。来期は▲7.6と、今期から2.8ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の一人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は28.7と、前期（27.2）から1.5ポイント上昇した。来期は27.5と、今期から1.2ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲5.4と、前期（▲8.4）から3.0ポイント上昇し、不足幅が縮小した。来期は▲2.9と、今期からさらに2.5ポイント上昇する見込みとなっている。</li> <li>今期の営業用設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲1.8と、前期（▲1.9）とほぼ同水準で推移した。来期は▲3.0と、今期から1.2ポイント低下し、不足が続く見込みとなっている。</li> <li>30年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は28.9%と、29年度の実績（24.3%）より4.6ポイント上昇する見込みとなっている。31年度（計画）は20.4%と、30年度から8.5ポイント低下する見通しとなっている。</li> <li>30年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が55.6%と圧倒的に高く、次いで「生産能力増大の為の機械・設備導入」（23.5%）となっている。</li> </ul>
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営上の問題（複数回答）については、全体では「人材不足」（49.2%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（37.8%）、「仕入価格の上昇」（32.9%）、「人件費の増加」（30.9%）と続いている。</li> </ul>

<p>4. 業種別 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年7～9月期の業況判断BSIは▲19.9と、同4～6月期（▲20.4）とほぼ同水準で推移したが、続く30年10～12月期は▲13.3と、同7～9月期から6.6ポイント改善した。一方、足元の31年1～3月期は▲26.6と、30年10～12月期から13.3ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、31年4～6月期は▲28.2と、さらに悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲12.4と、前期（▲14.4）から2.0ポイント上昇した。来期は▲20.3と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲9.6と、前期（▲11.2）から1.6ポイント上昇した。来期は▲17.0と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の製・商品在庫BSIは1.3と、前期（2.0）とほぼ同水準で推移した。来期は3.7と、過剰超幅が拡大する見込みである。</li> <li>今期の仕入価格BSIは41.9と、前期（44.6）から2.7ポイント低下した。また、販売価格BSIは0.0と、前期（0.4）とほぼ同水準で推移した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲11.6と、前期（▲9.5）から2.1ポイント悪化した。来期は▲14.6と、さらに悪化する見込みとなっている。</li> <li>30年度における設備投資の実施事業所割合は32.0%と、前年度（29.6%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（47.3%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（44.0%）、「生産・受注・売上げ不振」（39.0%）と続いている。</li> </ul>

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年7～9月期の業況判断BSIは▲16.9と、同4～6月期（▲24.2）から7.3ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲15.1と、同7～9月期からさらに1.8ポイント改善したが、足元の31年1～3月期は▲27.7と、30年10～12月期から12.6ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、31年4～6月期は▲22.5と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲9.2と、前期（▲15.2）から6.0ポイント上昇した。来期は▲13.3と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは28.7と、前期（26.0）から2.7ポイント上昇した。また、販売価格BSIは0.5と、前期（▲0.6）から1.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲12.4と、前期（▲12.3）とほぼ同水準で推移した。来期は▲14.8と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>30年度における設備投資の実施事業所割合は27.9%と、前年度（22.6%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（50.8%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（38.9%）、「人件費の増加」（30.4%）と続いている。</li> </ul>
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年7～9月期の業況判断BSIは▲8.6と、同4～6月期（▲22.8）から14.2ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲5.9と、同7～9月期からさらに2.7ポイント改善したが、足元の31年1～3月期は▲16.8と、30年10～12月期から10.9ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、31年4～6月期は▲20.0と、さらに悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲6.5と、前期（▲16.8）から10.3ポイント上昇した。来期は▲12.5と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲5.4と、前期（▲21.8）から16.4ポイント上昇した。来期は▲21.1と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは29.7と、前期（23.3）から6.4ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲4.3と、前期（▲4.5）とほぼ同水準で推移した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲3.2と、前期（▲8.9）から5.7ポイント改善した。来期は▲10.3と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>30年度における設備投資の実施事業所割合は32.0%と、前年度（21.6%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（61.1%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（55.7%）、「生産・受注・売上げ不振」（34.6%）と続いている。</li> </ul>
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年7～9月期の業況判断BSIは▲4.8と、同4～6月期（▲22.6）から17.8ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲3.5と、同7～9月期からさらに1.3ポイント改善したが、足元の31年1～3月期は▲23.4と、30年10～12月期から19.9ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、31年4～6月期は▲14.5と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは0.0と、前期（▲6.7）から6.7ポイント上昇した。来期は▲6.2と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは29.6と、前期（30.0）とほぼ同水準で推移した。一方、販売価格BSIは11.8と、前期（1.3）から10.5ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲5.6と、前期（▲4.0）から1.6ポイント悪化した。来期は▲9.6と、さらに悪化する見込みとなっている。</li> <li>30年度における設備投資の実施事業所割合は28.8%と、前年度（25.6%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（57.9%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（48.3%）、「人件費の増加」（28.3%）と続いている。</li> </ul>

非 製 造 業	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年7～9月期の業況判断BSIは▲26.7と、同4～6月期（▲30.9）から4.2ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲26.0と、同7～9月期とほぼ同水準で推移したが、足元の31年1～3月期は▲32.9と、30年10～12月期から6.9ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、31年4～6月期は▲19.8と、改善する見通しとなっている。</li> <li>・ 今期の生産・売上BSIは▲19.1と、前期（▲21.3）から2.2ポイント上昇した。来期は▲19.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>・ 今期の仕入価格BSIは28.8と、前期（27.7）から1.1ポイント上昇した。また、販売価格BSIは0.0と、前期（▲3.2）から3.2ポイント上昇した。</li> <li>・ 今期の資金繰りBSIは▲21.3と、前期（▲20.0）から1.3ポイント悪化した。来期は▲17.1と、改善する見込みとなっている。</li> <li>・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は23.4%と、前年度（19.9%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>・ 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（42.5%）の割合が最も高く、以下「競争の激化」（32.2%）、「仕入価格の上昇」（30.1%）と続いている。</li> </ul>
	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年7～9月期の業況判断BSIは▲39.3と、同4～6月期（▲41.4）から2.1ポイント改善した。続く30年10～12月期は▲37.6と、同7～9月期からさらに1.7ポイント改善したが、足元の31年1～3月期は▲48.7と、30年10～12月期から11.1ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、31年4～6月期は▲41.0と、改善する見通しとなっている。</li> <li>・ 今期の生産・売上BSIは▲12.0と、前期（▲31.0）から19.0ポイント上昇した。来期は▲10.2と、さらに上昇する見込みとなっている。</li> <li>・ 今期の仕入価格BSIは47.8と、前期（51.7）から3.9ポイント低下した。また、販売価格BSIは0.0と、前期（9.5）から9.5ポイント低下した。</li> <li>・ 今期の資金繰りBSIは▲26.5と、前期（▲32.8）から6.3ポイント改善した。来期は▲27.4と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は29.5%と、前年度（30.3%）から低下する見込みとなっている。</li> <li>・ 経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（60.7%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（45.3%）、「人件費の増加」（36.8%）と続いている。</li> </ul>
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年7～9月期の業況判断BSIは▲13.2と、同4～6月期（▲11.8）から1.4ポイント悪化した。続く30年10～12月期は▲11.2と、同7～9月期から2.0ポイント改善したが、足元の31年1～3月期は▲25.0と、30年10～12月期から13.8ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、31年4～6月期は▲21.6と、改善する見通しとなっている。</li> <li>・ 今期の生産・売上BSIは▲9.4と、前期（▲6.4）から3.0ポイント低下した。来期は▲16.6と、さらに低下する見込みとなっている。</li> <li>・ 今期の仕入価格BSIは16.2と、前期（9.9）から6.3ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲2.5と、前期（▲2.0）とほぼ同水準で推移した。</li> <li>・ 今期の資金繰りBSIは▲11.3と、前期（▲4.5）から6.8ポイント悪化した。来期は▲13.8と、さらに悪化する見込みとなっている。</li> <li>・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は26.2%と、前年度（19.8%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>・ 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（45.6%）の割合が最も高く、以下「人件費の増加」（32.4%）、「労働力不足」（31.9%）と続いている。</li> </ul>